

## H2 1.1.1 9 設楽ダム魚類検討会 議事概要

日 時：平成21年1月19日(月) 13時30分～17時05分

議事概要：

表 H2 1.1.1 9 設楽ダム魚類検討会の議事概要

議事項目	議事内容	委員の主な意見	意見に対する回答
1.魚類検討会の位置づけ及び経緯について	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境検討委員会との関係と役割について報告した。</li> <li>両委員会では、双方向で意見交換を行うことを報告した。</li> <li>魚類検討会の経緯について報告した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>特になし</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>特になし</li> </ul>
2.平成20年の野外実験について	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成20年度の野外実験結果(稚魚放流・直後モニタリングまで)について報告した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>放流実験の手法については、少しずつ前進している。</li> <li>今回の放流結果を見ると、放流する稚魚のコンディションが悪く、実験の供試魚としては適していない。</li> <li>飼育手法を見直して、状態の良い稚魚で実験が行えるようにすること。また、放流時の河川への馴化方法についても対応を検討すること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事務局：飼育手法、放流手法について、最善の方法となるように改善する。改善のために委員に飼育状況の現状、実験放流先を視察して頂く。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>下流集団の減少要因の推定結果及びその対応案について事務局(案)を提示した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>下流集団の減少に関連すると思われる病気や環境変動について、事務局は現状で手に入るデータを良く整理しており、豊川のネコギギ生息状況に対する理解が進んだ。</li> <li>下流側では河床の間隙等の生息環境が変動し易いという仮説に基づき、上流側の生息地と洪水後の状況を比較することで、個体数変動要因を探る基礎資料が得られると考えられる。</li> <li>個体数変動のモニタリングと共に、調査を継続すること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事務局：河床間隙等の生息環境の変動に関する調査を実施する。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後の野外実験計画について、事務局の修正案を提示した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>放流数については、ここまでの実験で得られたデータから実験の前提条件(当歳魚の秋から春までの生残率や個体群存続性の判断基準など)を見直し、平成21年度の野外実験計画を提案すること。</li> <li>実験のコントロールとなる生息数が多い場所への増殖稚魚放流については、現況で良いと考えられる生息場所を攪乱するおそれがあることから、工事工程や技術的な問題をもう少し検討してから取り組んだ方がよい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事務局：個々の作業計画と他の検討すべき事項、工事工程等との関連を整理し、時期を含めた具体の計画(案)として提示する。</li> </ul>
3.人工水路実験について	<ul style="list-style-type: none"> <li>繁殖場実験の結果について報告した。</li> <li>成熟個体と未成熟個体の行動の特徴を確認した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>実験の結果については、位置情報のみではなく、行動の記録が示されると良い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事務局：行動記録については、今後解析し、提示する。</li> </ul>

議事項目	議事内容	委員の主な意見	意見に対する回答
4.支川のポテンシャルについて	・ネコギギ生息環境の再生候補地である支川の調査計画(案)を提示した。	・支川では水質に着目した調査を行い、その結果で生息ポテンシャルを判断すると理解した。 ・水質の影響をみる一つの方法として、瀬の底生動物に着目すると良い。豊川との比較または、豊川と支川の合流後の左右岸で調査を行い、支川の影響をみることで、検出することが可能と考えられる。	・事務局：ご指摘に基づき、詳細な調査計画を立案し、調査を行う。また、再生候補地の支川の現状を視察して頂く等の対応を取る。
5.ダム下流の保全について	・ダム下流河川における、影響要因と環境影響について、その保全対策とモニタリングの流れを提示した。	・ダム下流の検討は今後重要となることなので、個別の要因と影響の関係等、詳細の検討を早急に実施すること。	・事務局：早急に検討する。
6.平成20年度モニタリングについて	・平成20年秋季までのネコギギ個体群調査結果について報告した。	・このようなデータを元に議論できるのは非常に良いこと。 ・現地のデータを元に議論できるように今後もモニタリングを継続して欲しい。	・事務局：モニタリングを継続して実施していく。
7.公表資料について	・公表用資料として作成したパンフレット(案)を提示し、委員への確認を要請した。	・パンフレット(案)を確認する。	・事務局：各委員よりご意見を頂き修正する。
8.今後の調査・検討計画について	・ネコギギの保全に関する今後の調査・検討計画(案)を提示した。	・ダム本体工事前に実施が予定されている転流工への対応についての議論が早急に必要となる。	・事務局：次回の検討会で対応計画(案)を提示し、審議して頂く。
9.その他魚類について	・次回検討会で詳細に審議する。	・希少魚という枠組み以外の観点からも保全の必要性を確認して議論すべきである。	・事務局：次回検討会ではご指摘に基づいた資料を提示する。